



動物レスキュー通信

2018年1月 第56号 (平成30年1月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

啓発活動の意義

なぜ大切なのか？



新年明けましておめでとございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。昨年2017年は私にとりて、とても忙しい1年となりました。なぜかというところ、思い描いていた動物愛護に関する啓発の映像制作に関わる事が出来たからです。私自身、歌手としても活動していますし、当財団の会長はメディアに強い人間ですので、私達が存在する意味というのは、この啓発活動をいかに広く行い、動物と人間とが素敵に共生できる日本、そして世界を実現できるかという事だと強く感じています。その為には出来るだけ間口を広く持つて活動する事が大切だと思います。出来るだけたくさんの方に動物と人間との関係に興味を持ってもらう事、今まで動物との共生に興味を持たなかった人にも関心を持ってもらえるようにする事がとても大切なのだと思います。まじめに硬く情報を発信する事はとても大切ですが、見てくれる、読んでくれる、聞いてくれる人というのは限られてきてしまいます。その点、エンターテインメントに伝えたい事を込める事によって興味を持ってくれる人が増えてくると考えています。その最初として私は数年前からこの啓発活動をするきっかけとなった自分と愛猫との実話を元にした歌を歌っています。動物の映画ではありませんが、ある短編映画の主題歌としても起用して頂き、たくさんの方に聴いて頂く事ができて、少しずつ広がりを見せていました。イベント等でも歌わせて頂き、涙を流しながら

聴いて下さる方もいらっしゃいました。そんな私の愛猫との思い出をドラマという形で世間に発表する事が出来ました。このドラマは「原宿ニヤンニヤン探偵局」という作品で、大きな筋としては主人公が行方不明になってしまった猫探しを探偵局に依頼し、一緒に探すのですが、本当は愛猫は既に亡くなっていて、主人公は愛猫が亡くなった事実を受け入れる事が出来なくて、ペットロスにより精神がおかしくなっていたのですが、最終的には愛猫との事を走馬灯のように思い出し、死を受け入れ、回復するという物語です。この最後の愛猫との思い出の部分が私の実話なのですが、このドラマを観た後、様々な方から反響を頂きました。「ワンちゃん、ネコちゃんと一緒に暮らしている方は、愛犬、愛猫と重ね合わせて、「一緒に過ごせる時間を今まで以上に大切にしよう」「もっと可愛がってあげよう」「愛犬、愛猫がこれまで以上に愛おしく思えた」「ワンちゃん、ネコちゃんを飼っていない方からは「動物を大切にしよう」という意識が強くなった」「飼い主さんとネコちゃんの思いに触れ、心があたたかくなった」などという感想を頂きました。こういった感想を頂けるといふ事は、少なからず観てくれた方がご自身で何かを感じ、考えるきっかけを私たちが作れたという事です。エンターテインメントの作品は万人に関心を持ってもらいやすいという事を再確認出来ました。もちろん全ての方が感動し、共感して下さるとは思っていませんが、たくさん方の目に

両方が意味のある事

触れる事が可能になるエンターテインメント作品が出来た事はとても意味のある事だと思います。

実際に今、殺処分されようとしているワンちゃんやネコちゃんを救う事はとても大切です。シェルターを建設し救ってきた子たちを大切にケアし、里親さんに譲渡する事はとても大変なことですし、非常に意味のある事です。しかし、ワンちゃん、ネコちゃんを飼う、そして飼う人間である飼い主さんの動物の命に対する考え方を正しいもの、動物が不幸にならないものに変えて行く活動を合わせて行っていくか、と、根本的な解決には至らないのだと思います。どちらも大切で必要な活動だといふ事です。そういった意味では、このドラマを通して更に広く啓発活動をしていくことができますし、啓発がいかに大切かを再確認出来ました。現在、千葉テレビ放送中のこのドラマだけではなく、ワンちゃんやネコちゃんに関する映画やドラマ、絵本や小説など、様々な作品が他にもあります。もちろんワンちゃん、ネコちゃんが題材のものだけではなく、優しさがテーマの作品や心温まる作品などエンターテインメント作品を通じて、何かを感じ、考えてみてはどうでしょうか？

詩月財団では、今年もエンターテインメントを通しての啓発活動を通じて、たくさんの方々に考える、感じるきっかけを作れるように活動して参ります。そうする事によって、不幸な命が1つでも減ると信じております。(詩月)